

日本語 (Japanese Language)

日本語 2 (Japanese Language 2)

(留(留))

遠藤 かおり・非常勤講師/国際センター

1 単位 後期 月 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目:『日本語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『日本語(1)』)

【授業の目的】 大学生として生活していく上で、必要な日本語力を身につけ、大学での様々な場面に対応できることを目指す。例えば、実際の講義やゼミでの演習などを想定し、「読む」「聞く」「書く」「話す」の4技能すべてにおいてレベルアップすることを目的とする。またその獲得した能力を応用し、実際の場面で生かせるようにする。さらにその過程で、自らの日本語力で不足している技能を見極め、それを伸ばす意欲を高める。

【授業の概要】 テキストを中心に各課のテーマに沿って進めていく。内容は課ごとに異なるが、「読む」「聞く」「書く」「話す」のそれぞれの技能を伸ばし、さらにより適切な表現を身に付けるためのタスクを行う。また、テキストで学んだ知識を活用できるように実践的な活動も取り入れる。

【キーワード】 総合的な日本語(「読む」「聞く」「書く」「話す」の4技能)、運用力、コミュニケーション能力

【先行科目】 [先行科目]

【関連科目】 『日本語/日本語 4』(0.5), 『日本語/日本語 6』(0.5), 『日本語/日本語 8』(0.5), 『日本事情/日本事情 II』(0.5), 『日本事情/日本事情 IV』(0.5)

【到達目標】

1. 大学生活に必要な日本語力を身につける。
2. 大学で想定される様々なコミュニケーション場面で、身につけた日本語力を用いて、適切に対応することができる。
3. 自分に必要な日本語力を知り、学習方法が獲得できる。

【授業の計画】

1. オリエンテーション, レディネス(これまでの学習)・ニーズ(これからの学習希望)調査
2. 第7課:人前で自己紹介を含めたあいさつをする。
3. 第7課:人前で自己紹介を含めたあいさつをする。
4. 第7課:自分のエピソードを述べる。
5. 第7課:自分のエピソードを述べる。
6. 第8・9課:発表用のレジメを作成する。
7. 第8・9課:発表用のレジメを作成する。
8. 第12課:スピーチの準備をし、発表する。

9. 第12課:スピーチの準備をし、発表する。

10. 第12課:スピーチの準備をし、発表する。

11. 第12課:スピーチの準備をし、発表する。

12. 第13課:討論の準備をし、発表する。

13. 第13課:討論の準備をし、発表する。

14. 第13課:討論の準備をし、発表する。

15. 第13課:討論の準備をし、発表する。

16. レポート・発表などのフィードバック

【教科書】 佐々木瑞枝他著 『大学で学ぶためのアカデミック・ジャパニーズ』(The Japan Times)2001年 2,500円

【参考書等】 [参考資料]

【成績評価の方法】 レポート, 発表, 授業中の小テスト, 授業への取り組み状況などをもとに、総合的に評価する。

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 日本で充実した大学生活を送るために、必要な日本語力を身につけましょう。実践的な活動も取り入れるので、積極的な授業への取り組みが必要とされます。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221279>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 遠藤 (088-656-7491, 7kao-beeguru@kmd.biglobe.ne.jp) MAIL

【備考】 緊急時の連絡先:大石(地域・国際交流プラザ内 国際センター, 088-656-9875)

Japanese Language

Japanese Language 2

(留(留))

Kaori Endo · PART-TIME LECTURER / INTERNATIONAL CENTER

1 unit 後期 月 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目: 『日本語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『日本語 (1)』)

Target) 大学生として生活していく上で、必要な日本語力を身につけ、大学で様々な場面に対応できることを目指す。例えば、実際の講義やゼミでの演習などを想定し、「読む」「聞く」「書く」「話す」の 4 技能すべてにおいてレベルアップすることを目的とする。またその獲得した能力を応用し、実際の場面で生かせるようにする。さらにその過程で、自らの日本語力で不足している技能を見極め、それを伸ばす意欲を高める。

Outline) テキストを中心に各課のテーマに沿って進めていく。内容は課ごとに異なるが、「読む」「聞く」「書く」「話す」のそれぞれの技能を伸ばし、さらにより適切な表現を身に付けるためのタスクを行う。また、テキストで学んだ知識を活用できるように実践的な活動も取り入れる。

Keyword) 総合的な日本語 (「読む」「聞く」「書く」「話す」 の 4 技能)、運用力、コミュニケーション能力

Fundamental Lecture) [先行科目]

Relational Lecture) “Japanese Language/Japanese Language 4”(0.5), “Japanese Language/Japanese Language 6”(0.5), “Japanese Language/Japanese Language 8”(0.5), “Japanese Culture/Japanese Culture 2”(0.5), “Japanese Culture/Japanese Culture 4”(0.5)

Goal)

1. 大学生活に必要な日本語力を身につける。
2. 大学で想定される様々なコミュニケーション場面で、身につけた日本語力を用いて、適切に対応することができる。
3. 自分に必要な日本語力を知り、学習方法が獲得できる。

Schedule)

1. オリエンテーション, レディネス (これまでの学習)・ニーズ (これからの学習希望) 調査
2. 第 7 課: 人前で自己紹介を含めたあいさつをする。
3. 第 7 課: 人前で自己紹介を含めたあいさつをする。
4. 第 7 課: 自分のエピソードを述べる。
5. 第 7 課: 自分のエピソードを述べる。
6. 第 8・9 課: 発表用のレジメを作成する。

7. 第 8・9 課: 発表用のレジメを作成する。
8. 第 12 課: スピーチの準備をし、発表する。
9. 第 12 課: スピーチの準備をし、発表する。
10. 第 12 課: スピーチの準備をし、発表する。
11. 第 12 課: スピーチの準備をし、発表する。
12. 第 13 課: 討論の準備をし、発表する。
13. 第 13 課: 討論の準備をし、発表する。
14. 第 13 課: 討論の準備をし、発表する。
15. 第 13 課: 討論の準備をし、発表する。
16. レポート・発表などのフィードバック

Textbook) 佐々木瑞枝他著 『大学で学ぶためのアカデミック・ジャパニーズ』 (The Japan Times)2001 年 2,500 円

Reference) [参考資料]

Evaluation Criteria) レポート, 発表, 授業中の小テスト, 授業への取り組み状況などをもとに、総合的に評価する。

Re-evaluation) 無

Message) 日本で充実した大学生活を送るために、必要な日本語力を身につけましょう。実践的な活動も取り入れるので、積極的な授業への取り組みが必要とされます。

Contents) <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221279>

Contact (Office-Hour, Room, E-mail)

⇒ Endo (+81-88-656-7491, 7kao-beeguru@kmd.biglobe.ne.jp) MAIL

Note) 緊急時の連絡先: 大石 (地域・国際交流プラザ内 国際センター, 088-656-9875)